

## 電磁波透過膜の成膜技術を開発

当社と株式会社JCU、株式会社きもとの3社は、関東学院大学 材料・表面工学研究所と共同で、電磁波を透過するクロム膜を成膜する新技術を開発しました。この成膜技術の応用により、ミリ波レーダーを搭載する自動車のエンブレムの電磁波透過膜を低コストかつ効率的にコーティングすることが期待でき、国産技術で自動車の自動運転技術や安全性の向上に貢献します。(2017.7.24)



▼ <http://www.shimadzu.co.jp/industry/products/plasma/uhsp/>

## X線TVシステム FLEXAVISION eXceed edition シリーズ2機種発売

透視画像処理技術とネットワーク機能を強化したX線TVシステムFLEXAVISION HB package eXceed editionとFLEXAVISION FD package eXceed editionを発売しました。画像の各画素ごとに検出した被写体の動きに合わせてノイズを効率良く低減する透視画像処理技術と、その処理をリアルタイムで高速に行う新開発のハードウェアを搭載し、被写体の動きによる残像感の少ないクリアな透視画像の取得が可能になりました。(2017.7.26)



▼ <http://www.med.shimadzu.co.jp/products/x-ray/03/index.html>

## 胆管や膵管の内視鏡検査における 被ばく量を大幅低減 新技術SUREngine FASTを開発

当社のX線TVシステムSONIALVISION G4向けに、内視鏡による胆管および膵管の検査・治療を行うERCP(内視鏡的逆行性胆管膵管造影)時のX線照射量を大幅に低減する新しい画像処理技術SUREngine FASTを開発しました。画質を落とさずにX線の照射量を抑えることができ、被検者や医療従事者の被ばくを低減します。本技術は、今後販売するSONIALVISION G4に標準搭載します。(2017.2.22)



▼ <http://www.shimadzu.co.jp/news/press/n00kbc000000au54.html>

## 高感度・高速・多機能、 他の装置と一括したデータ管理が可能な セミマイクロ分析天びん3機種を発売

分析天びんAP-Wシリーズの高感度モデルとして、最小読み取り限度0.01mgのAP135W、AP125WD、AP225WDの3機種を発売しました。微量軽量における表示の反応時間が約10秒だったのに対し、新モデルは約2秒まで短縮したことで高速な計量が可能です。加えて、HPLCを使用するお客様向けに、緩衝溶液の濃度調製や調合をサポートする機能など、新機能を搭載しています。(2017.5.26)



▼ [http://www.an.shimadzu.co.jp/balance/products/p01/ap\\_d.htm](http://www.an.shimadzu.co.jp/balance/products/p01/ap_d.htm)

## データ取得速度5倍、大気中・液中でも ナノオーダーの観察が可能な 高分解能走査型プローブ顕微鏡 SPM-8100FMを発売

画像データの取得速度を最大5倍に高めるとともに、X軸・Y軸の最大走査範囲をそれぞれ4倍に拡大し、大気中や液中においても真空中と同様に超高分解能な観察を実現する走査型プローブ顕微鏡のフラッグシップモデルSPM-8100FMを発売しました。微弱な原子間力の検出に、極めて低ノイズかつ高感度な周波数変調方式(FM方式)を採用しており、超高分解能を実現しています。(2017.6.13)



▼ <http://www.an.shimadzu.co.jp/surface/spm8100fm/index.htm>

## 食品や化学品に混入した 有機/無機の異物分析を省力化 試料保持・保管容器 EDXIR-Holderを発売

エネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDX)とフーリエ変換赤外分光光度計(FTIR)で共通に使用できる当社独自の試料保持・保管容器EDXIR-Holderを発売しました。EDXやFTIRを用いて微小な試料を分析する際には、これまで試料の載せ替えや試料自体の保管などが手間でしたが、本ホルダーは、試料を貼り付けて保持したままそれぞれの装置による分析を開始でき、分析後はホルダーを閉じてそのまま試料を保管できます。(2017.4.5)



▼ [http://www.an.shimadzu.co.jp/surface/xrf/edxir\\_holder/index.htm](http://www.an.shimadzu.co.jp/surface/xrf/edxir_holder/index.htm)

## 島津評論

Vol.73 [3・4] (2016)

●詳しくはWEBをご覧ください。  
[http://www.shimadzu.co.jp/tec\\_news/](http://www.shimadzu.co.jp/tec_news/)



<読者のみなさまの声> ◆ 榮和人さんの「小心者は小さな変化に気付く」という言葉は、ものづくりにおける品質向上にも通じるものがあると思いました。小さな気付きの積み重ねが最先端の製品開発につながっていることを、本誌を読んで実感しました。(30代/男性) ◆ 最近、仕事の範囲は広くカバーできるような時代に感じており、本誌のような、その道にこだわって仕事をしている人の記事を読むと、個人的にはうらやましく思いながら、読んでいます。さまざま道のスペシャリストの記事を読みながら、いろいろな仕事があるのだと感心してしまいます。(50代/男性) ◆ 時代の流れを汲んだ面白い記事、マニアックな記事を有難うございます。ページ数に比して読み応えがあるので、配布をいつも楽しみにしています。(20代/男性) ◆ 一般的な雑誌とは違い専門的な内容が多い所が読みやすいポイントだと思います。特に今回はGショックの文字盤とスパッタリングの話や、電子天びんの話が面白かったです。もう少し、島津製作所の製品のお話し(自慢ポイント)が記載されても良いかもしれません。(男性)

<編集部より> 北大・松尾先生の取材とのこと、記事にある「先週経験したこと、学んだことを1分考え、2分でお互い話す」をやってみました。たった2分ですが、口に出すことで「そういえば、こういうことがあって、あんな気持ちになって、こういう事が経験になったな」と、参加したスタッフそれぞれが改めて気付くことができたうえに、お互いの理解が深まるという貴重な経験をさせていただきました。試しに一度やってみてはいかがでしょうか。(榎本、石川、中田、長谷川)

## 会社代表テニスチームが大活躍

富士薬品セイムスウィメンズカップin甲府で加治プロがシングルスで優勝しました。本大会は、今年初めて開催された国際大会で、加治プロは自身初の国際大会優勝を飾るとともに初代チャンピオンとなりました。また、全英オープンに大前プロがオーストラリアのJessica Moore選手とダブルスで出場しました。予選の最終戦で敗れていましたが、本戦出場選手に欠員が出たことから、ラッキーリザーブとして本戦の出場権を得ました。当社テニスチームの所属選手が、世界4大会の本戦に出場したのはこれが初めてです。(2017.6.29/7.11)



▼ [会社代表テニスチームサイト](http://www.shimadzu.co.jp/breakers/)  
▼ <http://www.shimadzu.co.jp/breakers/>

## 新薬開発向け、 マイクロサンプリングデバイス MSW<sup>2</sup>を発売

受託分析事業などを手がける島津テクノリサーチと共同で、新薬開発などを目的に実験動物の血液検体を分析する製薬メーカーや機能性食品メーカー向けに、微量な検体の採取や分析に必要な血漿の分取を容易に行える非臨床分野用のマイクロサンプリングデバイスMSW<sup>2</sup>を開発しました。実験動物からの血液採取量低減や、血漿の分取とその後の処理の簡略化、ミスが起こりにくい検体の保管に貢献します。(2017.5.15)



▼ <http://www.shimadzu.co.jp/products/opt/products/msw2/msw2.html>

## 放射線治療装置用動体追跡システム SyncTraX FX4 versionを発売

放射線治療装置用動体追跡システムの機能を強化し、放射線治療時の位置決めオプションの追加も可能にしたSyncTraX FX4 versionを発売しました。呼吸等によって体内で静止できない肺や肝臓などの部位に放射線治療を施す際に、がん組織のみにピンポイントで照射できるようにリアルタイムで患部の位置を捉えるシステムです。がん組織のみに効率良く放射線を照射できることで、正常組織への線量を大幅に低減できます。(2017.4.17)



▼ <http://www.med.shimadzu.co.jp/products/rt/index.html>

## オープンプラットフォームで用いる マルチオミックス解析パッケージの 提供を開始

当社のガスクロマトグラフ質量分析計、液体クロマトグラフ質量分析計で得られるプロテオミクス、メタボロミクス、フラックス解析の膨大なデータを自動でマップに表示し様々な解析を行える代謝工学向け島津マルチオミックス解析パッケージの提供を開始しました。本パッケージは、当社が大阪大学に2014年12月に設置したオープンイノベーションラボ「大阪大学・島津分析イノベーション共同研究講座」を活用し、SBI、大阪大学と進める共同研究成果の一つです。作業時間を数分間に短縮でき、研究者は手動による煩雑な解析作業から解放され、新たな知見の発見や仮説の想起に集中できると期待されています。(2017.6.6)

▼ <http://www.shimadzu.co.jp/news/press/n00kbc000000bhos.html>

## 東京工業大学内に 「島津製作所 精密機器分析室」を開設 設備共用化や若手研究支援を加速

東京工業大学の生命理工学院内に「島津製作所 精密機器分析室」が開設されました。ライフサイエンス関連先端精密機器を中心に先端的な機器を備えた施設で、先端研究の推進をはじめ、若手研究者や学生などの研究支援、国際共同研究や種々の企業との産学連携の推進に活用されます。また、当社においては、新たに開発した機器等を利用した産学連携スペースとして本分析室を活用する計画です。東京工業大学内に設置された初の企業連携による共用機器室で、産学連携のモデルとして、全学的な設備共用化を図ります。(2017.5.9)

※本誌p7～8で紹介

▼ <http://www.an.shimadzu.co.jp/news/press/n00kbc000000b9ps.html>